2012.10.25

（第3種郵便物認可）

加須7年ぶり8強

狭山、越谷は競り負ける

〈関東連盟秋季大会〉

リトルシニア

リトルシニア関東連盟秋季大会は21日、狭山リトルシニアグラウンドなどで3回戦8試合が行われ、8強が決定。北関東支部（埼玉、栃木、群馬）の加須が、今夏関東16強の横浜泉に15－8で打ち勝ち、7年ぶりの準々決勝進出を決めた。

加須は一回に野本真の2点適時二塁打で先制。二回4点、三回には5点と序盤から打線が爆発。出場全員の18安打と猛打を振るい、試合を優位に進めた。

越谷は2010年大会4位の横浜青葉との息詰まる投手戦を0－1で落とし、狭山は千葉西に延長八回の末、7－8で競り負けた。

準々決勝は26日に上尾高沢高校などで実施され、加須が4強を懸け、新宿と対戦する。

▽3回戦

加須 2 4 5 2 2 0 2 15
横浜泉 2 0 2 3 0 1 1 8
（六回コールド）

（加）諏訪、川島、柴野－野本真
（横）梅沢、渡辺、寺村－加藤
▽二塁打 野本真2、鱒坂（加）辻、加藤、中川、須永3（横）

横浜青葉 0 0 0 0 1 0 1
越谷 0 0 0 0 0 0 0

（横）山田－金井
（越）武田大－細井
▽三塁打 重村、吉川（横）▽二塁打 御園（横）

千葉西 1 0 0 2 0 0 0 5 8
狭山 0 0 0 1 2 0 0 4 7
（延長八回）

（千）山宮、香取－大沢
（狭）斎藤大、横山、三浦－菅農
▽本塁打 小池（千）▽三塁打 小池（千）▽二塁打 志村、中橋、大沢（千）小春、岸本（狭）

※準々決勝の対戦カード（28日・北関東支部関係）
▽日大藤沢高校－新宿
【第2試合】
加須－新宿
静岡 褐野 3－0 静岡 蒲原
八千代中央 6－0 江戸川中央
中本牧 11－1 小金井
新宿 6－5 江戸川東
横浜東金沢 7－5 戸塚

驚異の粘り届かず

ゲームセットまで力の限りを尽くした。延長八回の末、狭山が千葉西に惜敗。それでも吉田昭彦監督は「よく戦った」。心なしか充実感が漂っていた。

八回、千葉西に満塁弾を浴び3－8。諦めかねない5点差から驚異的な追い上げを見せた。

小春昇太からの3連打でまず1点。さらに1死満塁とし、直前のマウンドで5点を失った三浦良太が打席に。「失点はバットで返す」。たたきつけた打球は右前に転がり2者が生還した。続く中祖昂也の併殺崩れで1点差まで迫ったが、次打者が倒れ、万事休した。

しかし1カ月前とは違う姿だった。支部大会準決勝の栃木下野戦。終盤に3点のリードを逆転されると反撃も淡泊に終わったが、この日は執念を感じさせた。

そして一丸だった。五回同点打の岸本龍征や八回に中前打で好機を広げた長谷川大地は代打で結果を出した。「レギュラーだけでやっている訳ではない」と主将の菅農和磨。選手たちは同じ方向を向いていた。

「楽しい野球をする」「見る人を感動させる試合をする」。吉田監督のモットーだ。8強を争ったグラウンドには、多くのOBが顔を見せた。八回の攻撃は逆転劇の期待を抱かせた。設立13年目で初挑戦した関東は激闘を演じ、幕を閉じた。

新チームは始まったばかり。「精神的なタフさを身に付けさせたい」と指揮官に余念はない。確かな手応えをつかみ、今後の躍進に期待は膨らむ。（丹羽良平）

千葉西－狭山　1回表千葉西2死二、三塁、志村の右前打で本塁を突いた二塁走者手塚の生還を阻む。捕手菅農

エース力投も打線沈黙

「踏ん張れなくて申し訳ない」。越谷の武田大慶は六回の失点をわびたが、エースの名に恥じない力投だった。打線が横浜青葉・山田啓太の前に無安打と沈黙し、敗れた。

武田大は先頭打者に三塁打を許したが、後続を連続三振と三ゴロに仕留め、一回のピンチを切り抜けた。二～四回を三者凡退に取りリズムに乗ったが、六回に適時三塁打で1点を失った。

援護したい打線だったが、出塁は敵失による1度のみ。会心の当たりも何度かあったが、野手の正面を突くなど運もなかった。状況の打開を試みるも青羽英次監督は「直球に絞ったが、変化球が多彩でうまくかわされた」と肩を落とした。

3試合で失点4と武田大を中心とした守備力は証明された。それを生かすためにも攻撃力の向上が今後の鍵。主将の武田勇也は「この悔しさを来年に生かしたい」とチームメートの思いを代弁した。

横浜青葉－越谷　6回表横浜青葉無死一、三塁、マウンドの武田大（1）に集まる越谷の選手たち

高砂が全勝優勝

西堀A－1は首位並ぶ

南組　南浦和アタックス－死、左中間に本塁打を放っ

さいたま浦和スポ少野球後期リーグ

さいたま市スポーツ少年団野球部会浦和の後期リーグ戦は20、21日、さいたま荒川総合運動公園などで

〈東部ブロック秋季大会〉

決勝　三郷－川口　6回表三郷2死三塁、東海が同点の右前適時打を放つ